第７号
平成20年11月1日

農業大学校だより

vol.7

実りの秋を迎えて

暑かった夏も過ぎ、朝夕は肌寒さを感じる季節になってきました。松代キャンパスでは、農家体験実習を終え、入学時とは見違えるように成長し、たくましくなった生徒たちが、来年のプロジェクト学習に向けた準備を進めています。小諸キャンパスでは、春にはまだまだ手元が怪しかった学生たちが、いまではすっかり仕事が身について、テキパキと農作業をこなしています。こうした農家やキャンパスでの実習経験は、貴重な人生体験として、学生たちの今後の人生の宝となっていくのではないでしょうか。

水田は穂を垂れ、リンゴやナシやブドウも色づき、収穫の盛りを迎えています。夏から秋は、命を育む農業のすばらしさを実感する季節です。農大祭・農大市では学生たちが頑張って育ててきた作物が、並びます。わずかではありますがみなさんに味わっていただけるのを楽しみにしています。

キャンパス統合へ

農業大学校 校長
牧野内 生義

農大に入学して最大の試練である農家体験実習から一年生が戻ってきました。高校生が抜け切らない顔から一気に農大生の顔に大変貌を遂げる瞬間は、毎年のこととはいえ感嘆の一言に尽きます。

さて、総合農学科の発足以来の懸案であったキャンパス統合が平成二十二年四月から実現することとなりました。来年度の入学生からは二年間通して松代で学習することになります。もちろん専攻実習などに必要となる松代キャンパスの農場等は来年中に拡充整備してまいります。

一・二年生が一緒に学習し生活する。又、分離していた教職員が一体化することにより、学習の深度や速度の向上は勿論より豊かな人格形成が期待されます。

年度後半は、農大祭・農大市・プロジェクト発表会・弁論大会と皆様にお出で頂く機会が増えます。是非とも学生の成長振りをご覧頂ければ幸いです。

発行／長野県農業大学校　長野市松代町大室3700

新入生歓迎ウォークラリー開催

平成二〇年四月二四日、新入生の歓迎会を兼ねたウォークラリー大会が小諸市布引観音と小諸キャンパスで盛大に開催されました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、一、二年生は、それぞれ一四班に分かれ、クイズやタイムアタックを行いながら順位を競いました。

初めて顔を合わせるだけに、初めこそやや緊張気味でしたが、一緒に歩くにつれて、話も弾み、ゴールの小諸キャンパスに到着する頃には先輩後輩同士ですっかり打ち解けあっていました。二年生の自治会が主催した歓迎会では、焼肉をほおばりながら、先輩から様々なアドバイスを受けて親睦を深めていました。

一、二年生が合同で摘果デー

六月三日は、午前九時から、一、二年生が合同で、小諸キャンパスのリンゴ園の摘果作業を行いました。両学年で合同作業を行うのは初めての試みです。この日も、雨に加えて風も吹くあいにくの天気模様で、全員がカッパを着ての作業となりました。最初は黙々と作業していた学生たちも、後半には口もほぐれ、一、二年生間の交流はさらに進んだようです。雨と肌寒さの中でも、松代キャンパスから差し入れられた茹卵を食べ、体調を崩さずに元気に作業を終えました。このがんばりを自信に、今後の学生生活をさらに充実させることでしょう。

プロジェクト学習中間検討会開催

七月一日、小諸キャンパスにおいて、プロジェクト中間検討会が開かれ、早朝から、二年生三四名が一学年時に計画したプロジェクトの内容やこれまでの学習状況を再点検する発表を行いました。

プロジェクト学習とは、「自ら計画し、自らの力で自らが学ぶ」もので、単なる知識を頭の中に詰め込むこれまでの日本の教育とは異なり、創造性や企画力が求められる二一世紀型の教育とも言えます。

多くの学生がその精神を理解し、諸先輩の成果を更に工夫した機具を考案した発表もあり、最終発表に向けて皆がんばっています。

皆で汗を流した全学体育大会

6月19日、梅雨の合間の中、野球、バレー、卓球とみんなで汗を流しました。

産地視察、広いぞ北海道

七月八～一二日、一年生は北海道に産地視察研修に出かけました。北海道といえば夕張メロンや長芋が有名です。JA幕別では広大な長芋畑を視察し、JA夕張市では夕張メロンの販売戦略を学びました。視察先の選定を含め、旅行委員長として活躍した唐澤匠君は、北海道を訪ねるのは生まれて初めてでしたが、「畑の広さに圧倒された。自分が作った作物に農家は誇りを持っていたし、夕張メロンも農協で販売している種子だけを栽培し、農家が互いに学び会う等、厳しい決まりがあることでブランド化ができています」と特産品づくりの背景にある努力に感心していました。スケールの大きな北海道の大地をともに旅した一年生たちは、農大生としての一体感を得たようです。

続けて七月一五～一七日にかけて、「第三九回全国農業大学校交換大会」が宮城県仙台市で開かれました。本校から代表として参加したのは尾崎太寿君、寺澤勤君、小川源太君の三名です。環境に優しい農業やサクランボ産地を視察する課題別研修コースが設けられましたが、参加した小川君は「有機農業や循環農業といっても、採算の会う付加価値化を図るのが難しい」と理想と現実のギャップを目にしていました。現場の苦労を実際に目にすることで学生たちの視野は確実に深まったようです。

コース毎に学ぶ経営戦略

経営戦略論とは、先進的な経営に取り組んでいる農業者の方々から、その経営理念や経営技術等を学ぶ専門性も高い授業です。専攻コース毎に年に六回程実施していますが、例えば、野菜コースでは、日本農業賞を受賞された「こもろ布引いちご園」の倉本組合長の教えを受けました。大学校での普段の授業とは違って、時代の最先端の経営が学べるとあって、学生たちもいささか緊張気味で授業を受けていました。組合長は「栽培や管理データをフィードバックして経営に生かす農業」を経営理念の柱とされていますが、こうした理念が、学生たちの将来の農業経営に生かされることが期待されます。

きついけど勉強になったぞ

農家体験実習！

9月10日から10月3日まで1年生全員は恒例の現地体験実習に参加しました。早朝からほとんど休みなく働いた学生、農家の子どもさんの子守りをした学生、コンバインの修理の仕方を教わった学生、施設増築のための工事体験まで指導された学生。各学生の体験は様々でしたが、農業で生計を立てているプロの生き様にどの学生も深い印象を得たようです。一カ月ぶりに戻った学生たちは、『社会勉強』を受け、見違えるほど成長していました。

農家の方々の持つ人間教育力はもっと着目されても良いように感じます。

オープンキャンパスで後輩を案内

八月五・六日、松代キャンパスではオープン・キャンパスが開かれ、他都県高校を含め、多くの高校生が参加しました。校内の農場や施設見学では、学生たちが、参加者に説明を行いました。自分の専攻コースの説明はできても、他のコースの説明で四苦八苦する学生も若干いましたが、それも勉強です。見学後は小諸キャンパス産の白土ばれいしょ、農大産のトマトやキュウリを味わってもらいましたがとても評判でした。

ミニプロジェクトに初挑戦

最近は非農家で農業高校以外の出身の生徒たちも学校に入学してきます。自分で農作物を栽培した体験がなければせっかくの授業も実感がわきません。そこで、今年は入学早々、二十日ダイコン作りにチャレンジしました。もちろん、栽培経験のある学生も重量測定や葉の大きさの計測は初体験。本格的なプロジェクト学習の入門としての試みは予想以上に好評でした。

平成21年度長野県農業大学校「総合農学科」学生募集!!

総合農学科は2年間通して学生寮に入寮する、全寮制です。

松代 自啓寮

羊の毛刈りを実習

■人　数:60人

■対　象:高校卒等　■修学年限:2年

■専攻コース

作物・畜産・野菜・果樹・花きの中から入学後の授業や実習等を通じて専攻コースを選べます。

■資格・特典

○在学中に次の資格・免許の取得のための学習等を行います。
毒物劇物取扱者、大型特殊免許(農耕車)、車両系建設機械運転技能、フォークリフト運転技能、小型移動式クレーン運転技能、玉掛け技能、家畜人工授精師他

○卒業者は、人事院規則等に基づき短大卒業と同等に扱われ、また専門士の称号が付与されます。

■推薦入試(募集人員のおおむね50%)

願書受付　平成20年**10**月**27**日(月)～**11**月**7**日(金)
入学試験日　平成20年**11**月**19**日(水)

■一般入試

願書受付　平成20年**12**月**22**日(月)～平成21年**1**月**9**日(金)
入学試験日　平成21年**1**月**19**日(月)

■問い合わせ先

長野県農業大学校事務局 TEL**026-278-5211**(代)